

## 年間第31主日

「神を愛し、隣人を愛するように求める愛」

今日の福音の中心には、神を愛し、隣人を愛するように求める愛のおきてがあります。律法学者がイエスに尋ねます。「あらゆるおきてのうちで、どれが第一でしょうか」（28節）。イエスはまず、すべてのイスラエルの民が一日の初めと終わりに唱える信仰告白を唱えます。「**聞け、イスラエルよ。われらの神、主は唯一の主である**」（申命記6・4）。このようにイスラエルの民は、この信仰告白全体を貫く根本的な真理を毎日、確かめることで自分の信仰を守っています。すなわち、主は唯一であり、主は不変の契約によってわたしたちと結びついておられる、主はわたしたちの神であるという真理です。神は過去、現在、未来においてわたしたちをつねに愛しておられます。この主の愛こそが、二つの掟の源にあるものです。「**心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。……隣人を自分のように愛しなさい**」（マルコ12・30-31）。

今日の福音でイエスは2つの聖書の箇所を参照し、それらを結合して、愛という1つの戒めの2つの方向を示しています。これは、十字架を構成する2本の木すなわち柱と梁のようなものです。一つは垂直を示し、一つは水平を示しています。イエスにとって、この2つの方向は、本物のキリスト教徒の信仰の全てを意味します。

一つ目の垂直の方向は、第一朗読で読まれたように、私たちが神との喜びに満ちた結合を完全な愛へと誘うものです。これは、愛の戒めの縦の次元です。

しかし、時に問題となるのは、神に対する愛を強調しすぎる人がいることです。この人は、他の人を自分の人生から締め出します。神のためだけに生き、一日中祈って過ごしたいと思っています。他の人は神だけと共に生きたいという自分の邪魔をし、自分を神から遠ざけるだけだということです。あなたが何かをしてくれるように頼むと、彼らはこう言います。「私はあなたのために何かをするより、祈っていることが大切だと思います」。このような考え方は、本当の意味でのキリスト教的な考え方ではありません。それは単なる利己主義です。

二つ目の水平の方向は、レビ記に書かれている「隣人を自分のように愛しなさい」ということです。これは、愛の戒めの縦の次元です。しかし、神を愛することの愛の戒めと同じように、正反対のことをする人もいます。

彼らは、病気の人、貧しい人、問題を抱えている人、その他の人々を助けることに全力を尽くしています。彼らは昼も夜も働いています。忙しすぎて、祈る時間ありません。彼らはこう言うと思います。「私の仕事は私の祈りです」。

しかし、それは半分しか真実ではありません。私たちは、神なしに神の仕事をするにはできません。今日の福音書に登場するイエスは、私たちにはっきりと言いました。「神を愛し、隣人を愛しなさい」。ある聖人は言いました。「私たちは教会で手を組んで祈ります。そして教会の外にいる人に手を開くべきです。」神を愛さずに人を愛することはできません。人を愛さずに神を愛することはできません。神を愛するとは、神のもとで、神のために、神がここにおられ、神がなされるわざのために生きることです。わたしたちの神はすべてを与え、限りなくゆるしてくださいませ。わたしたちの神は私たちを交わりのうちに生きるように力づけ、はぐくんでくださいます。したがって神を愛することは、隣人のために全面的に奉仕し、限りなくゆるそうと努め、交わりと兄弟愛という結びつきをはぐくむことによって、神の協力者となれるよう、日々努力することを意味します。

神への愛と隣人への愛という二つの方向は、その方向が一致することによって初めてキリストの弟子であることを特徴づけます。わたしたちがこの素晴らしい教えを日常生活において受けとめ、あかしできるように、おとめマリアが助けてくださいますように神に祈りましょう。

